

間ノ岳&北岳山行報告

【山行日】2019年9月7日(土)~8日(日)

【集 合】岩舟支所P AM 2:00

【費 用】マイカー1台 : 16,200円

【メンバー】CL:鈴木、石川、岩淵、関、鶴見

9月7日(土) 晴れ 芦安市営駐車場からバスで広河原まで行き、大樺沢沿いに二俣から八本歯ノコルを經由し北岳山荘まで行き、間ノ岳をピストンで登って北岳山荘に宿泊する。



岩舟支所 P2:00=芦安市営 P4:30/5:15=広河原 6:10/6:25~二俣 8:30/8:40~八本歯ノコル 11:10~北岳山荘 12:00/12:30~間ノ岳 14:00/14:20~北岳山荘 15:40

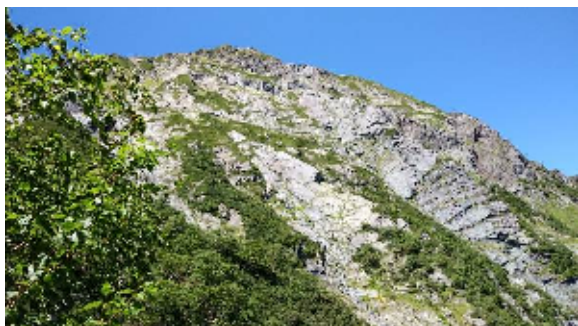
北岳と間ノ岳に登りたいとリクエストがあり、ハードな行程なので無理と言ったが「荷物は私が持ちます」と言われ計画した。ところが当人からの参加申し込みは無く、5名で登ることになる。



台風15号の動向を心配しながら2時に岩舟支所を出発し、駐車場がある芦安に着いて驚いた。

道路の要所に案内の方が居て駐車場に誘導するが、第一駐車場から第三駐車場はすでに満車で第四駐車場に案内される。第四駐車場もほぼ満車で、かろうじて入口に縦に駐車するよう指示される。第四駐車場からタクシー・バ

スの発着所がある第二駐車場までは、十数分歩かなければならない。急いで準備を整え、坂道を15分歩いて第二駐車場に着く。タクシーはすでに満車で、バスが3台あるがいずれも座席は埋まっていた。トイレを済ませてバスの乗車券売り場に並んでチケットを買い、バスに乗り込むが立ち乗りである。タクシーに乗れないとバスは遅いので、広河原着が10分以上遅くなる。1時間近くバスに揺られ、立ち乗りなので腕が疲れてしまった。広河原に着きアルペンプラザのトイレに入るが、



トイレにも長蛇の列で時間が掛かってしまう。何回も来ているがこれほど混雑は初めてで、山小屋も混むのか心配したが、多くの登山者は北沢峠に向かうようでバス乗り場に大勢並んでいた。ストレッチを済ませたら出発し、ゲートをくぐり大吊り橋で野呂川を渡ると広河原山荘に出る。山荘を右に見て大樺沢沿いに樹林帯を上がると、白根御池経由の尾根道コース分岐に出る。

左に大樺沢左岸の道を緩やかに登り、ダケカンバの樹林の中しだいに高度を上げて行く。やがて木橋を渡って右岸を進み、崩落地を高巻気味に登って行く。視界が開けると正面に八本歯のコルを見上げるようになり、やがてトイレブースがある二股に着き遅れた時間を取り戻した。小休憩して果物や菓子を食べ、疲れた体を休める。ここからは左俣沿いの道を、八本歯のコルに向かって登る。左俣にはまだ雪渓が残るが、亀裂が入り雪渓の下は激流が走る。沢沿いに急傾斜の登山道を登るが、ゲンナイフウロや



タカネビランジ等の花が疲れを癒してくれる。うす紫の可憐な花が咲いていて「何の花だろう？」と言っていたら、下って来た男性が「綺麗な花でしょう？ミヤマハナシノブと言う花だよ」と教えてくれた。右側に迫力あるバツレスの大岩壁を見ながら、徐々に高度を上げて行く。さらに傾斜がきつくなりペースが遅くなり、元気なI&Iの二人に先行して北岳山荘に行き、受付をお願いする。我輩は足元がふらつき、バランスを崩して後ろのSさんに何回もぶつかる。「それって高度障害だよ」と言われ後ろに振られないようゆっくり慎重に登る。八本歯のコルまで10箇所くらい木のハンゴが連続し、しだいに体力が奪われる。途中で何回か休みながら何とか八本歯のコルに着き、前方に間ノ岳と農鳥岳の雄姿が現れる。涼しい風が気持ち良いが、ここからも木のハンゴや険しい岩稜の登りが続き気を抜けない。北岳への分岐に出るとトラバース道になり、細かいアップダウンがあるが歩きが楽になる。北岳山荘も目の前に迫り、ペースを上げて歩いて行く。

北岳山荘に着くと I&I の二人は、受付を済ませて間ノ岳に向かっていた。我々も部屋に入り、昼食を食べサブザックに荷物を詰め出発するが、我輩は危険なので山荘で待つことにした。後発の二人を見送り、山荘北側の尾根に登り二人の姿が見えなくなるまで見送る。台風は何処に行ったのやら、今季最高の晴天に恵まれ、終日北岳&間ノ岳、富士山が見えていた。間ノ岳に登った4名は、山頂から360度の大展望を堪能出来たと喜んでいて。



皆さんが戻ってきたら外のベンチで乾杯し、間ノ岳を眺めながら1杯千円の生ビールで祝杯を挙げた。5時から夕食になり、山荘の方から「明日の天気は晴れです」と言われ、明日は4時に出発し山頂からご来光を拝むことにする。



9月8日(日) 晴れ 朝4時に山荘を出発して北岳山頂でご来光を楽しみ、山頂で朝食を食べて肩の小屋から草すべりを經由して下山し、金山温泉で汗を流し昼食後岩舟支所へ
山荘 4:00～北岳山頂 5:15/5:45～肩の小屋 6:20/6:30～白根御池小屋 7:50/8:00～広河原 9:40/9:55
＝芦安市営 P10:40/11:00＝金山温泉 11:05/11:40＝とな吉 11:55/12:45＝岩舟支所 P17:10

＝芦安市営 P10:40/11:00＝金山温泉 11:05/11:40＝とな吉 11:55/12:45＝岩舟支所 P17:10

朝3時に起きて外に出ると、星が瞬いていて、北岳が薄暗い空にはっきり見えた。ヨシ！！登れるぞと喜んだが、台風はどうしたのだろうと思った。部屋に戻って出発の準備をして、トイレを済ませて外に出る。皆さんもすでに外で待っていて、ストレッチを済ませて出発する。



山荘から北の尾根に登り、右に尾根を進んで行く。北岳に向かうのは我々しか無く、暗い登山道をヘッドランプの灯りを頼りに踏み跡を辿る。登山道にペンキマークは一切なく、登山道を外さず歩くことが難しい。慎重に道を確認しながら歩き、休憩をと

っていると2人組が下って来て、大体の道筋が解り有り難かった。

今日は高度障害も無く快調に登ることが出来る。一旦下って登り返し、八本歯のコルからの道と合わさると急な登りになり、空が明るくなって歩き易くなる。南東方向に富士山が見えるようになり、皆さんから歓声が上がる。ヤセた岩稜に登り、急な岩場を登り切ると北岳山頂に出る。山頂には数組のパーティが日の出を待っており、我々も山頂標識にタッチしてからご来光を待つことにする。



東の空が真っ赤に染まり日の出ショーが始

まった。皆さんとても嬉しそうな顔でご来光を拝んでいる。昨日は標高が日本で3番目の間ノ岳に登り、今日は2番目の北岳山頂に立っている。2日間快晴の山頂を登破し、何と豪華な山行であろうか。振り返ると仙丈ヶ岳が朝日に輝いて聳え、西側の山腹に北岳の影が映る『影北岳』が見られ感動する。大パノラマを楽しみながら朝食をいただき、至福の時間を過ごし、記念写真を撮ったら下山する。下山は肩の小屋に向かって下って行くが、ヤセた岩稜を下るので慎重に下って行く。東からの風が



少し強くなり、これから台風の影響が出てくるのかなと思った。肩の小屋に着き、ベンチで休憩しトイレを済ませる。ここからは展望が良い尾根を下り、甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳、富士山を見ながら軽快に下る。小太郎尾根分岐から右に下り、ハイマツの急坂を下ると再び分岐になり、左に白根御池小屋に向かって下る。ダケカンバの樹林の中をジグザグ下り、草スベリと言われる急坂を一気に降

りて行く。やがて傾斜が緩くなり、平坦な道を少し進むと白根御池に出る。池の畔を左に進むと白根御池小屋に着き、小屋の前のベンチで大休止する。

大勢の登山者が休んでおり、ここまで下ると皆さんホッと一息つけるようだ。カリントウやミカンをいただき、水を入れ替えたら出発する。ここからは小太郎尾根の下部を巻くように進み、途中から東に向かって急な尾根を下って行く。沢の音が大きくなると傾斜が緩くなり、往路の二俣への分岐に出る。

ここから緩やかに15分程下ると広河原山荘に着き、かき氷が無いか聞くとありませんと言われガッカリした。吊り橋を渡り、道路から北岳に別れを告げる。アルペンプラザでトイレを済ませ、タクシー



乗り場で待つと丁度タクシーが1台着いた。

9人乗りのワゴンタクシーに乗り、林道から間ノ岳や農鳥岳、北岳が良く見え、「昨日歩いた3000mの尾根だね」と満足そうに眺めていた。広河原に着きかき氷が食べたいと、第二駐車場で降りたがかき氷は無く、諦めて第四駐車場へ歩いて行く。

靴を履き替えザックを積んだら、金山温泉に向かう。温泉は直ぐそこにあり、1分も掛からず着いた。食事は摂れるか聞くと「9月から食堂はやっていない」と言われ、「何処か美味しい店を教えて」と聞くと「とな吉」と言う店を教えてくれた。温泉にゆっくり浸かって汗を流し、教えてもらった「とな吉」に向かう。駐車場が広く大きなレストランで、和洋中何でも食べられる地元の人気店だ。店に入ると直ぐに席に案内され、それぞれ好きなものをオーダーする。クリーム餡蜜もオーダーしロースカツ膳やカツ丼、5色蕎麦は直ぐ来たが、寿司と我輩の鉄火丼が来ない。3人が食べ終わって、かき氷を食べ終わっても来ない。50分待たされてようやく出され、美味しさが半減した。帰りに道の駅「しらね」に寄り、お土産に桃とシャインマスカットを購入し



帰路につく。白根 IC から中部横断自動車道に乗ると、中央道は小仏トンネルで渋滞の表示が出ている。双葉 JCT から韮崎方面に向かい、国道141号線を通り八千穂 IC から上信越道経由で帰ることにする。上信越道は渋滞も無くスムーズに走り、予定より早く岩舟支所に帰着した。